

学習材について

●令和8年度用教科書からの変更箇所

令和7年12月に内閣告示された「ローマ字のつづり方」により、従来、二通りあったつづり方が統一されるとともに、各音のつづり方や長音の書き表し方の決まりが一部変更されたことを受け、本学習材では、令和8年度用教科書から3点変更した。1点目は、二通りのつづり方を比べていた教科書P131「ローマ字の書き方」を削除し、代わりに「ローマ字表記と発音」について取り上げたことである。2点目は、設問の変更である。教科書P130の二つの設問は、二通りのつづり方で書き表したり、それぞれのつづり方の使用場面を考えたりするものであった。それを、設問①は、統一されたつづり方で書き表すように変更し、設問②は、自分の名前と住所をローマ字で書き表すようにした。3点目は、改定の内容を踏まえた「ローマ字」と「書き表し方の決まり」の追加である。

●指導の際の留意点

学習を始める前に、本資料P14～15にて、3年次に学習したローマ字のつづり方から変更があった箇所を押さえるとよい。まず、つづり方が統一された「し」「ち」「つ」などについて、「ローマ字」の下の注記を活用しながら確認したい。次に、「書き表し方の決まり」を用いて、長音の書き方を確認するとよい。従来は、長音符号を付ける書き方のみが示されていたが、改定に伴い、平仮名で書き表す際と同様に母音字を並べる書き方が新たに示され、二通りの表し方になった。基本的には長音符号を付けて示すが、イ列長音で発音される語と、エ列長音で発音される語のうちエ列の仮名に「い」を添えて書くものについては、母音字を並べる書き方が一般的であるとされた。また、長音符号については、「^」から「-」に変更されていることに留意したい。

指導計画例(全2時間)

指導目標

◎ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。(知(1)ウ)

時	学習活動	評価規準
1	①本資料P14～15で、ローマ字の表と書き表し方の決まりを確認し、3年次に学習したつづり方との違いを確かめる。 ②「問いをもとう」を参考に、身の回りのローマ字を収集する。 ③収集した言葉を基に、ローマ字表記と英語の違いについて確かめる。	㊦ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。[記述] ㊧ 積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。[観察・記述]
2	①本資料P13で、ローマ字表記と発音について確かめる。 ②設問①で取り上げられている言葉をローマ字で書く。 ③自分の名前と住所をローマ字で書く。 ④書いたものを友達と見せ合い、「いかそう」を確かめる。	

参考

●設問の解答

① gasshō (gasshou), shioke, chisui, insatsu, necchū (necchuu)